



ドックの見える風景

(佐々木英樹氏 昭和34年卒)

夕陽

函館市立あさひ小学校
印刷／株島本印刷

発行所
夕陽会 函館市支部
函館市立あさひ小学校
印刷／株島本印刷



『母校の変わりゆく姿』に光が

夕陽会函館市支部 支部長 伊藤 皓 嗣
(昭和四十四年卒)

四月十五日、支部総会に新採用会員十七名を迎えました。「私は大学でモダンダンスクラブに所属しており、発表会には、夕陽会のご支援をいただきました。仲間に入れていただき、感激しています」というあいさつもあり、はつらつとした意欲と若々しさがあふれるひとときとなりました。

函館校のこの三月の公立学校教員採用候補者登録状況は百二十八人(昨年度卒業生は四十五人)、登録率は三十%を超え、五分校の中で最も高い成績という結果でした。少子化による学校数や学級数が減少する中で、快挙といえるでしょう。

しかし、大きな変革のうねりの中、今春、教育大学は五分校合同による入学式を札幌市で行いました。我が母校としては、ついに、「教員養成課程がない」入学式を迎えたのです。函館校の人間地域科学課程においては、人間発達専攻のみ小学校教員免許を、他専攻は中学・高校の教員免許を取得することができます。定員三百三十人に對し、およそ千五百人が受験。約五倍という厳しい難関を突破した新入生を対象にした希望職種調査によると、人間発達(六十七・三%)、情報科学(四十七・一%)、環境科学(四十四・八%)の三専攻で教員志望者が最多。全専攻での平均は三十九・八%に上り、公務員や民間企業への志望増加の一方で教員への志望が依然として根強い状況です。

況となりました。函館校は、学内施設「就職支援センター」を開設するとともに就職支援講座を開設し、人材育成・具体的な就職対策にあたる体制を整備しているそうです。

今、夕陽会本部では、母校のさらなる発達に向けて「組織強化・財政確保」「大学・学生支援」のワーキンググループが活動しています。また、二年ごとに改訂している会員名簿の編集作業も最終段階を迎えました。北海道函館師範学校(大正七年卒)の第一回生以来、北海道教育大学函館校・北海道教育大学大学院函館校(平成十八年卒)まで、実に二万人の同窓生の輝かしい歴史が見えるものとなりそうです。函館校が魅力あるものになり、地域を幅広くリードできる人材をはぐくむように「母校の変わりゆく姿」に大きな期待を抱きながら、支部として全面的な協力をしていきます。

五月二十三日、新会員・幹事懇親会に新採用・転入会員四十九名が出席しました。ある会員が、「全道各地を回り、夕焼けの輝きを見るたびに故郷を思った。夕陽会はどこに行っても心の支えだった」と、しみじみ話していました。

昨年度に引き続き、あさひ小学校に事務局を置いて業務を推進します。皆様のご支援・ご協力をよろしく願っています。

心の置き場所



田野中 敏

下海岸の丘で登校する児童を迎えるのですが、一度として同じ風景であつたためしがありません。遠く函館市街を臨むのですが、ある時は雲を帽子にしていたり、濃霧の中に消えていたり、函館山の山頂だけが顔を出していたり。

「ああ、これは子どもたちも同じだよなあ」と、思わずにはいられません。おはようございますと交わすあいさつの中に子どもの微かな変化があるのです。

ふと、顔をのぞくと満面の笑顔があふぶ。豊かな緑と美しい海に囲まれた石崎小学校は、今年で百二十七年目を迎えました。

全校児童五十名と規模は小さいのですが、恵まれた自然環境と、きれいな校舎の中で、日々子供たちの明るく元気な声が響いています。

初めての小学校勤務ということもあって、不安とまどいを感じながらの着任でしたが、教職員はもとよりPTAをはじめ周囲の方々の協力をいただき、ようやく勤務にもなれ、充実した毎日を過ご

地域と一体となつて



滝澤 智子

れているとき、笑顔は笑顔なんだけれど何かあるとき、ちよつと苦しそうなとき、悲しそうなとき。実に様々な心が表情に見て取れるのです。

しかも、子どもたちの心の変化はめまぐるしく、中休みにはこれが同じ子どもなの、と思えるほど変化していることもあります。そして、昼休みから下校時になると今朝の表情とは一変しています。

「心の居場所」という言葉があります。私は、「心の置き場所」の方が小学校には似合うのではないかなと思い始めています。小学校の中には、嫌な心置いておく場所が必要です。一時預かりでも置き忘れてもかまわない、そんな心の置き場所のある学校づくりを…。

(昭和四十九年卒 函館市立東小学校長)

新たな気持ちで

させていただいています。

本校では「すすんで、つづけて、元氣よく」を重点目標に、少人数ならではの異学年交流学習をはじめ、豊かな自然を生かした体験的な学習や地域の熱意に支えられた子供会、サッカー、バレーのスポーツ少年団活動とも連携した、特色ある学校づくりを展開しています。

これからも続く児童数の減少で確かに厳しい状況もあり、教職員と知恵を出しあい工夫しながら取り組まなければならない課題もありますが、伝統ある石崎の地域と一体となつて、子供たちの健やかな成長のためにがんばっていききたいと思っております。

今後とも、夕陽会の諸先輩方のご指導とご支援をお願い申し上げます。

(昭和五十七年卒 函館市立石崎小学校教頭)

五十八の瞳



青木 完二

小学校は百年を超える歴史を有し、山や川など豊かな自然に囲まれ、時には、鹿が訪れ、時には、ツバメが飛び交う鱒川小中学校は、私が密かにあこがれていた勤務地でした。全校児童生徒二十九名という小さな学校ですが、子どもたちは、毎日、登校途中に見つけた草花や、虫たちと戯れながら、時には、先生方のおみやげとしてもつてくるなど、本当にこのすてきな環境で、生き生きと学んでいます。実は、私も小学校は校長先生と教員

新たな出会いを大切に

四月一日に着任して二日目の朝、「教頭さんいるかい？」そんな声と共に訪ねて来られたのが同窓会の会長さんと幹事長さんでした。「ここは函館の中の田舎の学校だよ」と教えられ、何のことかと思ひながらも次々と訪ねて来られる同窓会の方、旧PTAの役員の方々、町会の方々(よくまあこれだけちよくちよく学校に訪ねてくるなあと思ひながら)と接しているうちに、この学校の成り立ちから今に至っている経緯、そして地域の方々

新たな出会いを大切に



佐竹 聡

が一人というたいへん小さな複々式の学校に入学しており、鱒川の子どもたちが、上級生を先頭に集団で登下校する姿は、四十年前の私の姿と重なり、とても懐かしく感じています。

一方ではこうした僻地の小規模校という状況において、学校、あるいは、教職員は、まさに、子どもたちにとつて最大の教育環境であり、私たちの努力がそのまま子どもたちの成長と比例するなど、この鱒川小中学校は、教師冥利につきる学校でもあります。そのため、教職員は、全員が一丸となつて、小中の枠を超え、「子どもの変容があつて、初めて教育の成果とする。」という共通の目標を掲げ、日々、努力しています。

今後とも、夕陽会の皆様のご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

(昭和五十四年卒 函館市立鱒川小中学校長)

の学校に対する思いというものがどれほど熱く、そして親しみをもっているのかということが少しずつ理解できてきたように思います。

PTA三役をはじめとする保護者の皆様、親父の会、同窓会、各町会の皆様方いつも温かい目で見守られ育っている生徒たちは、中学生とは思えないほど素直で人なつこく、伸び伸びと学校生活を送っています。

このたびの着任により、生徒をはじめ学校を支えてくださった皆さんの方々と新たに出会えたことに感謝し、校長先生を先頭に職員一同、光成地区の一員として地域に信頼されるよう、これからの生徒たちをしっかりと見て、育てていけるよう努力していききたいと思っております。

今後とも、夕陽会の皆様のご指導ご支援をお願い申し上げます。

(昭和五十八年卒 函館市立光成中学校教頭)

「“今”を自分の言葉で伝えたい」。教員を目指す傍ら、以前からの夢であった記者…と迷いながらの大学入学。理科教育専攻として大学生活を送りました。しかし、「やつてみてから後悔しよう」と昨年四月から函館新聞社に勤務。現在、教育担当記者として幼稚園から大学まで市内各校での取材活動をしております。

在学中は「教員の卵」として学んできた教育を、社会の「動き」の一環として伝える難しさに日々悩みながら筆を進めています。「社会にとつてどの情報が必要とされているのか、書くべきことは何なのか」。取材で出会う先生方とのお話から、ヒントを得ながらの取材活動です。

本紙で毎週金曜日掲載している特集ページ「はこだて教育」では、なるべく多くの子ども姿を伝えたいと考えております。「その学校だからできること」「その

授業のことについて、子どもたちとの距離感について、学級経営について…など赴任当初は、様々な不安な気持ちでいっぱい、何をどうしていいかわからないうまま毎日を送っていました。私の経験と例えば教育実習での経験と、特殊学級のボランティアの経験しかなく、特に通常学級の経験はほとんどありませんでした。しかし、諸先輩方の支えのおかげでここまでやって来ることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。その中でも夕陽会の歓迎会や大懇親会などでは、私が大学時代に出会った多くの先生方や、そのほかの多くの方々とも楽しく話をするこ

学校でしかできないこと」など特色ある教育は、他の学校や社会へ影響をもっていると感じています。

記者は自分で担当を決められる訳ではありません。だからこそ、今、記者として、夕陽会会員として多くの先生方や子どもたちとこのような形で出会い、「教育」に携わることができるととても誇りに感じています。今後も子どもたちの「横顔」を追いかけて、「生きた記事」を伝えていきたいと思っています。

(平成十七年卒 函館新聞社)

「生きた記事」伝えたい



笠原 郁実

新たな第一歩



西村 祐紀

とができ、夕陽会のつながりの大切さを感じることができました。

私は、教師として新たな第一歩を踏み出しました。長い間の夢だった教師になれたことを幸せに感じています。それとともに、教師という立場に責任をもち、毎日一步一步、努力を重ねて進んでいきたいと思っています。今後とも様々な面で指導いただきたいと思います。何卒よろしくお願いたします。

(平成十八年卒 函館市立北美原小学校)

新会員になって

大学時代はモダンダンスクラブの一員として、夕陽会の方々から様々な援助を受け、大変心強い支えを感じました。そして四月からは、夕陽会の会員として、また、函館市立あさひ小学校の教師として勤めさせていただくことになりました。ここでも、新会員歓迎会などで、諸先輩方の歓迎や温かい励ましを受け、自分も夕陽会の一員となれたことが嬉しく、大変誇りに思いました。今後は、夕陽会の名に恥じぬよう、全力で励んでいきたいと考えています。

共に学び、共に感動



小野 由恵

新たな一ページ



手塚 景太

この春より、教員として毎日を過ごすようになり、私を受け持ってくださいました先生方がいかに大変だったかを痛感します。

教育にあたって私は、常に二つの柱を立てて精進しているつもりです。その一つは優しい気持ちを持った明るい子ども・クラスを目指すこと。もう一つは、教員として自分が常に学び続け、妥協しない教員であることです。クラスにはさまざまな子どもがおり、そのどの子どもも、自分の存在意義を感じられるようなクラス・学校環境でなければならぬと考えております。その実

学校では一学期も終わり、私にとつてはあつという間の四ヶ月でした。しかし、非常に中身の濃い四ヶ月だったと感じています。きっとそれは、一日一日の生活の中に、子供たちの小さな成長や発見があり、そのような貴重な時間を見逃すまいと必死だったからでしょう。毎日それほど変化のない学校生活のように見えますが、実は毎日、目まぐるしく変化する感動が一杯詰まった空間で過ごしているのだと、教師になって改めて気づくことができました。

これからも、子供たちと一緒に学び、共に感動できる教師を目指し、日々精進していききたいと思っております。先輩会員の皆様、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

(平成十八年卒 函館市立あさひ小学校)

現のためには、それぞれの子どもが互いに良さを認め合い、時には気になるところを確かめ合い、自身の成長を感じられるようにしていかなければならないと感じています。現在はクラス担任ではないため、教科の時間が目標の実現に向けての勝負の時間であると思います。ですから授業の中で、子ども同士がクラスで「助け合い・学びあいの気持ち」を意識できる環境を実現したいと考えております。

私にとつては毎日が新たな一ページとなっています。毎日の新鮮さに充実感を覚えると同時に、新たな壁にぶつかることも多々あります。そんな折に支えてくれるのが夕陽会なんだと感じます。先日の大懇親会では、同じ学び舎から巣立った先生方の深いつながりを感じました。このつながりを大切に、自分の可能性を信じ、子どもの将来のために邁進していく所存です。発展途上ではありますが、今後ともどうぞよろしくお願いたします。(平成十八年卒 函館市立北中学校)

- 一、本部との連携を深め、会員親睦の充実に努める。
- 二、幹事、若手会員を核に、「創造し行動する夕陽会」の浸透に努める。
- 三、会員の慶弔に対し、適切に対処する。
- 四、会員の動向を的確にとらえ、組織強化ならびに会計の効率化を図る。
- 五、広報活動の充実を図る。

母校開学の精神「土地墾闢・人民蕃殖」の精神を確かめ、支部会員の資質高揚と親睦の和を深めることを目指した会務の運営に努める。

合わせて夕陽会の充実発展に寄与する。

平成18年度 支部 運営方針

支部役員・業務内容

一、支部役員

役職	氏名	卒業年次	所属
支部長	伊藤 皓嗣	44年卒	函館市立あさひ小学校長
副支部長	三島 俊博	47年卒	函館市立潮見中学校長
監査	八木 裕	53年卒	函館市立北海道教育センター所長
幹事長	真崎不二彦	28年卒	函館護国神社宮司
副幹事長	岡野 伸二	54年卒	函館市立昭和小学校教頭
幹事	津田 英昭	56年卒	函館市立本通中学校教頭
幹事	大倉真由美	59年卒	函館市立あさひ小学校教頭
副幹事	三上 裕子	54年卒	函館市立北昭和小学校教頭

二、主な業務内容

氏名	卒業年次
元支部長 山尾 正	23年卒
元支部長 高井 信	30年卒
元支部長 藤谷 利春	32年卒
元支部長 板東 忠康	33年卒
元支部長 池上 信廣	37年卒
元支部長 齊藤 正宏	39年卒
元支部長 寺岡 昭治	42年卒
元支部長 小山内 武弘	42年卒
元支部長 武田 隆雄	46年卒
元支部長 沼崎 孝男	44年卒

- 一、支部総会
- 二、受賞祝賀会
- 三、支部会報の発行
- 四、新入会員激励会
- 五、役員会、学校幹事会
- 六、本部事業への協力(総会・懇親会・その他)
- 七、会費(本部会費・支部会費)の集約
- 八、特別業務
 - ・結婚会員へのご祝儀・祝電
 - ・逝去会員へのご香典・弔電
 - ・受賞会員、昇任会員への祝電

平成17年度 一般会計決算書

1. 収入の部

項目	予算額	決算額	増減(△)	摘要
会費	1,260,000	872,000	△371,000	872名
前納・年会費		17,000		年会費会員中17名より
繰越金	459,407	459,407	—	
繰入金	100,000	100,000	—	前納会計より
雑収入	3,593	20,000	16,407	本部より振込手数料
合計	1,823,000	1,468,407	△354,593	

2. 支出の部

項目	予算額	決算額	増減(△)	摘要
事務費	410,000	201,430	△208,570	封筒、事務用品ほか
事業費	450,000	413,006	△36,994	会報、広告代ほか
会議費	400,000	281,180	△118,820	総会、役員会、歓迎会ほか
慶弔費	400,000	277,730	△122,270	祝電、結婚祝金、弔電、供花
振込手数料	30,000	26,700	△3,300	本部支部会費等振込手数料金
雑費	30,000	2,100	△27,900	振込用紙印字手数料
予備費	103,000	—	△103,000	
合計	1,823,000	1,202,146	△620,854	

<収支決算>

収入	1,468,407
支出	1,202,146
残高	266,261

→次年度繰越

平成18年度 予算案

1. 収入の部

項目	前年度決算額	本年度予算額	増減(△)	摘要
会費	872,000	880,000	8,000	880名の見込み
前納・年会費	17,000	20,000	3,000	年会費会員中20名の見込み
繰越金	459,407	266,261	△193,146	
繰入金	100,000	100,000	—	前納会計より
雑収入	20,000	20,000	—	本部より振込手数料
合計	1,468,407	1,286,261	△182,146	

2. 支出の部

項目	前年度決算額	本年度予算額	増減(△)	摘要
事務費	201,430	250,000	48,570	封筒、事務用品ほか
事業費	413,006	400,000	△13,006	会報、広告代ほか
会議費	281,180	280,000	△1,180	総会、役員会、歓迎会ほか
慶弔費	277,730	270,000	△7,730	祝電、結婚祝金、弔電、香典
振込手数料	26,700	26,700	—	本部支部会費等振込手数料金
雑費	2,100	29,561	27,461	振込用紙印字手数料
予備費	—	30,000	30,000	
合計	1,202,146	1,286,261	84,115	

3. 前納会計

種類	残高
郵便局定額貯金証書	428,000
普通貯金通帳記載定額貯金	1,500,000
普通預金総合通帳残高	273,603
合計	2,201,603

● 新採用會員

● 各學校幹事

学 校 名	青柳小	あさひ小	柏野小	駒場小	深堀小	北日吉小	湯川小	旭岡小	北昭和 和 小	赤川小	中央小	北美原小	本通小	戸倉小	桔梗小	亀田中	北中
転入会員	池田七穂	小野由恵	山名田薫	丹羽かおり	野呂宜正	工藤みさき	藤田沙織	吉田真知子	後藤直美	小田七瀬	塩谷美鈴	西村祐紀	糸畑由佳	坂本奈央美	太田竜也	初山小枝子	手塚景太
卒 年	H18	H18	H15	H15	H14	H17	H18	H13	H11	H16	H9	H18	H18	H18	H18	H12	H18

港	大	五	凌	宇賀の浦	潮見	西	大	白	磨	木	榎	え	日	戸	南	本	東	神	鍛	北	中	赤	亀	昭	北	中	桔	石	東	旭	上	高	湯	北	日	深	駒	金	
川	川	稜	雲	中	中		船	尻	光	直	華	さん	新	井西	本通	通	山	山	神	美原	央	川	田	和	昭	和	の	梗	崎		岡	湯川	丘	川	吉	吉	堀	場	堀
中	中	中	中	中	中	中	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小
梶	大	木	吉	川	岩	平	伊	横	中	杉	工	朝	野	大	佐	真	高	丹	小	西	本	松	田	福	富	木	時	滝	山	小	山	岩	若	山	山	近	萩	一	
田	村	村	田	村	本	野	藤	山	村	本	藤	倉	口	岸	々	田	橋	治	林	村	間	井	上	永	岡	谷	田	澤	下	野	本	本	本	林	田	崎	江	森	戸
健康	真	友	秀	秀	高		嘉		友	敏	憲	達		正	武	勇		雅	祐	達	貴		英		広	伊	智	真		昇	昌	慎			辰	敦	寿		
太	裕	岐	樹	靖	樹	志	圭	弘	円	子	典	昭	史	均	幸	知	二	恵	哉	紀	也	洋	悟	丈	令	範	将	子	慶	徹	吾	章	也	肇	修	仁	史	勝	
10	7	11	8	7	13	5	6	9	7	7	7	3	6	8	11	12	17	19	19	19	20	8	15	16	14	14	14	2	9	12	8	14	17	15	13	12	16	12	

○部 長	会 計 部	広 報 部	庶 務 部	総 務 部	分 掌	支部事務局組織（あさひ小）	市 教 育 委 員 会	教 育 大 学	万 年 橋 幼 児 園	附 属 函 館 中 学	附 属 函 館 小 学	白 尻 中 学	尾 札 部 中 学	鍛 法 華 中 学	恵 山 中 学	日 新 中 学	潮 光 中 学	北 通 中 学	本 花 中 学	桐 田 中 学	桔 梗 中 学	赤 川 中 学	銭 亀 沢 中 学	鱒 川 小 中 学	亀 尾 小 中 学	旭 岡 中 学	戸 倉 中 学	湯 川 中 学	深 堀 中 学	的 場 中 学	光 成 中 学
	○柿本 正之・松谷 有子	○大塚 信夫・山田 尚人 高橋久美子・山本 公作	○菅野 博・坂本 晴子 小野 由恵	○津田 英昭・大倉真由美	氏 名		加 賀 重 仁	石 井 宏 一	戸 澤 裕 美 枝	可 児 直 之	松 下 靖 賢	川 野 健 幸	松 宮 治 豪	横 山 洋 幸	長 田 幸 浩	長 村 幸 司	後 藤 隆 志	小 熊 景 太	手 塚 有 麻	本 吉 有 剛	森 谷 好 一	山 田 信 之	大 山 裕 平	土 谷 昭 幸	坂 本 秀 朗	笠 川 美 教	佐 藤 大 輔	横 山 友 紀	丸 山 伸 一	中 田 和 子	伊 川 大 志
	9	11	1	3	13		14	4	7	3	7	3	7	13	18	12	24	11	12	4	7	13	8	14	15	11	12	4			

夕陽会函館市支部規約

第一条 この会は、北海道教育大学夕陽会函館市支部と称する。(夕陽会函館市支部と略称する。)

第二条 この会の事務局は、支部長の勤務先に置く。

第三条 この会は夕陽会会則に基づき、支部会員相互の親睦と発展を図ると共に、地域の教育・文化の進展に寄与することを目的とする。

第四条 この会は、その目的を達成するため次のことを行う。

一、総会

二、懇親会

三、会員の慶弔に関すること

四、支部会報の発行

五、教育研究諸会合

第五条 この会は、函館市及びその近郊に在住する次の各号に該当する者をもって会員とする。

一、北海道函館師範学校卒業生

二、北海道第二師範学校卒業生

三、北海道学芸大学函館分校卒業生及び修了生

四、北海道教育大学函館分校卒業生及び修了生

五、北海道教育大学函館校卒業生及び大学院修了生

六、母校に在学した者(講習科、養成所も含む)

一、役員

(一) 支部長 一名

(二) 副支部長 二名

(三) 幹事長 一名

(四) 副幹事長 若干名

(五) 幹事 若干名

第六条 この会の役員は次のように定める。

一、役員

(一) 支部長 一名

(二) 副支部長 二名

(三) 幹事長 一名

(四) 副幹事長 若干名

(五) 幹事 若干名

二、選出方法

(一) 支部長、監査委員は選考委員により選考し、総会の承認を求めらる。

(二) 副支部長、幹事長、副幹事長は支部長が委嘱し、総会の承認を求める。

(三) 幹事は、勤務先その他ブロック毎に一名を選出し、支部長が委嘱する。

三、任務

(一) 支部長は、支部を代表し会務を統理する。

(二) 副支部長は、支部長を補佐し、支部長に事故ある時はこれを代行する。

(三) 幹事長は、支部長の命を受け、会務を処理する。

(四) 副幹事長は、幹事長を補佐する。

(五) 幹事は、勤務先その他ブロックを代表し、会務を分担する。

(六) 監査委員は、支部の会務及び会計を監査する。

四、任期

(一) 支部長、副支部長、監査委員は二年とする。

(二) 幹事長、副幹事長、幹事は一年とする。

(三) 欠員による補充役員は、前任者の残任期間とする。

(四) 再任は妨げない。

第七条 この会は、顧問を若干名置くことができる。

一、顧問は、この会の重要な事項に關し支部長の諮問に応じる。

二、顧問は、支部長が委嘱する。

第八条 この会の会議は、次のように定める。

一、総会

(一) 定期総会は、年一回支部長が招集し、会務、会計、規約、役員その他の議題を審議する。

(二) 臨時総会は、必要に応じて支部長が招集し、定期総会に準じて行う。

二、幹事会

必要に応じて支部長が招集し、この会の基本的な事項について協議し遂行する。

三、その他、必要とするもの。

第九条 この会の収入は、次の通りとする。

一、会費

(一) 通常会費は、年額一、〇〇〇円とする。

(二) 前納会費は、別途規定を設ける。

二、寄附金

三、事業による収益金

四、その他

第十条 この会の支出は、次の通りとする。

一、会議その他事業費一般

二、懇親会その他会合費

三、慶弔費

(一) 会員の結婚は祝儀五、〇〇〇円と祝電

(二) 会員の受賞、栄進等は祝電

(三) 会員の死亡は香典五、〇〇〇円と弔電

(四) その他必要なものは、支部長、副支部長、幹事長の協議による。

第十一条 この会の会計年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。

付則

平成五年四月十七日 改正

平成九年四月十九日 改正

平成十三年四月二十一日 改正

平成十八年四月十五日 改正

事務局だより

○ 函館市支部会報第七十号ができましたのでお届けいたします。

本会報の発行に際しましては、ご多用中にもかかわらず、昇任・新会員の方々から、心のこもった原稿をお寄せいただきました。深く感謝申し上げます。

○ 今回の総会で規約の一部が改正になりました。財政事情により「会員の死亡は香典五千元と弔電」と変更になりました。ご理解をお願い申し上げます。

○ さて、去る五月二十三日、ホテル函館ロイヤルにて、本部より川島孝夫会長様、須藤由司幹事長様のご臨席を賜わり、「幹事会」及び「新会員・幹事懇親会」を開催いたしました。山尾正顧問様・高井信行顧問様からも祝辞と激励のお言葉をいただき、若々しい新会員を囲み、各学校幹事の方々とともに同窓の絆を一層高めあうことができました。

○ 各学校幹事の皆様へ
六月十七日の本部総会・大懇親会へ向けての出席の取りまとめ等、ご協力ありがとうございました。

● 来春、二月二十三日、例年同様に受賞祝賀会を計画しております。その節もよろしくお願いいたします。

● 会員の方に慶弔がございましたら、事務局(あさひ小学校)津田または菅野までご一報ください。

夕陽会函館市支部 事務局

〒040-0034 函館市大森町六番十一号

函館市立あさひ小学校内

電話番号(〇一三八)二二二二八二

FAX番号(〇一三八)二二二二八二

〒040-0034 函館市大森町六番十一号

函館市立あさひ小学校内

電話番号(〇一三八)二二二二八二

FAX番号(〇一三八)二二二二八二